

【優秀賞】

水を守る〜野蒜の地から学んだこと〜

仙台市立郡山中学校

三年 大柿 楽々

たった一度、水なんて嫌い、そう思ったことがあります。

昨年の夏、所属している劇団の合宿がありました。行き先は東松島。東日本大震災で津波の大きな被害を受けた地です。

月浜の海でめいっぱい遊んだ後に、旧野蒜駅を訪れました。旧野蒜駅とは、元々は奥松島・野蒜海岸の観光開発のために設置されましたが、津波の被害を受けて使用不能となり、現在は形はそのまま震災復興伝承館として残っているものです。八年の時を経てめぐにやりと曲がったままの手すりに看板。雑草に埋もれたままの旧線路。あまりにも寂しい光景を目にしてから、中へ入りました。一番に目に止まったのは、高い天井の近くにある、一本の横に引かれた線です。三・七メートル、と標記もありま

す。まさか、と思いましたが、それはすぐ向こうにある川の、当時の津波の高さでした。この地の沢山のをさらったのは津波なのだと、紛れもない水なのだと、その頃にやっと実感が湧いたかもしれません。

その後には、伝承館のむかいにある震災復興祈念公園に行きました。ここには、この地野蒜の犠牲者全員の名前が彫られた石像があります。のべ六〇〇人。細かく彫られた名前を見て、涙が止まらなくなりました。水は東松島の美しい景色だけでなく、誰かの大切な人たちまで、何もかもさらっていつてしまったのです。

落ちつくこうと、水筒を取り出しました。幼い頃からスポーツドリンクやお茶が苦手な私が水筒に入れるのは、水に限ります。冷たい水を一口飲んでほっとしました。たった今心の底から憎たらしいと思った水を、私は常日頃そばに置いていたのです。思い返せば昨日も、この地を襲った月浜の

海が好きでした。夜のバーベキューでこの地の水をふんだんに使っていたご飯は、絶品でした。それだけではありません。私たちの生活は、水ありきのものなのです。

水に対して少し複雑な思いを抱きながら、合宿を終えた私は水の怖さについて調べることにしました。野蒜で見た光景以外にも、水が犠牲にしたものを知っておきたいと思ったからです。

平成三十年に全国で発生した水難は一三五六件、被害にあった人の数は一五二九人。うち六二九人が亡くなったり行方不明となったりしています。他の事故と比べても、水難はいったん起きてしまうと命にかかわる重大事故になってしまいます。調べ進めると、水難の起きる場所と場面が分かりました。いちばん多いのは全体の五三・六パーセント。過半数をこえて海でした。魚釣りや水遊びの場面が圧倒的に多いとも分かりました。

ほとんどの件が、個人の不注意や判断の誤りが原因だったと知り、悲しくなりました。

しかし、この現実から目をそむけてはなりません。このように私たちの手によって水を敵にしたいとは思いません。東松島の姿が変わり果てたのは、確かに水のせいかもしれません。水を嫌いだと思うのも、仕方ないのかもしれません。そこでも忘れていけない事実というのが、たった一つあります。それは、私たちはこれからも水と共に生き続けていくということです。ならば私たちは水を好きになるべきだと思ふのです。

防げることは、防ぎましょう。共に生きる水には、感謝の気持ちを忘れずに。私たちが守っていきましょう。